



角 笛 会 会 報

ホームページ: <http://www.tsunobue.org/>

発行所

日本大学生物資源科学部
校友会 角笛会

〒252-0880

藤沢市亀井野1866

0466-84-3633



巻頭のご挨拶

角笛会会長 鳥海 弘 (昭和50年卒)

合わせて、市ヶ谷で開催された角笛会校友会には日本獣医師会蔵内会長、多くの本学教員をはじめ全国からの大勢の世代を超えた校友が参加され盛大に開催できました。準備・企画をしていただいた東京角笛会倉林会長、池田事務局長はじめ東京角笛会の先生方には改めて厚くお礼申し上げます。

この校友会を最後に COVID-19が全国に拡大蔓延した影響で、予定されていた学位記等伝達式、卒業生謝恩会、新入生歓迎会等が開催されず出席ができませんでした。本来、若い年代の卒業生や新入生との交流は有意義な時間でもあります。COVID-19の影響で中止となり校友会や獣医師会について講義する機会がなくなったのは誠に残念でした。

年度末と新年度の幹事会、角笛会定期総会、第19回日本大学医療系同窓・校友学術講演会等の主要事業が次々と中止となりました。日本大学医療系同窓・校友学術講演会は、本学の医療系(医・歯・松戸歯・薬・獣医)の同窓が集まり、共通のテーマを追求する総合大学である本学であればこそ出来得る非常に素晴らしい講演会です。

幹事会や定期総会は電磁的記録あるいは書面での意思表示によるみなし決議による方法に変更しての開催となりました。

定期総会には第1～7号議案が上程され承認を得ました。第5号議案では本総会の終結をもって役員の任期が満了するため、新役員の選任が行われ前任者全員が再任されました。事務局は鯉江 洋先生(事務局長)岡林 堅先生(企画渉外)に加え大野真美子先生(企画広報)が新任で運営をして参ります。

第6号議案では昨年度総会にて継続審議となっていた長野県の南信州支部の設置について、これまでの経緯を付与し承認を求めたところ、北海道支部と東北海道支部の例のように広域な県における会員増加や地域の偏在などによる前例に基づき、同一県内に2支部の設置を認めることの承認を得たことを報告いたします。全国には6,000～7,000名の会員が在籍していると推測されていますが。都道府県毎に支部がありますが、支部活性化と会費未納入支部への対応が大きな課題ですのでこの問題を解決しなくてはならないと考えております。

定期総会同日に4年前から始まった1号館1階のフロアを使った動物病院就職説明会は総会が開催できませんでしたので、9月にWeb形式での病院説明会となりました。参加企業はありましたが学生の参加が少なく今後の開催方式の検討が課題として残りました。

例年、角笛会総会と日本大学獣医学会が同日開催となっておりますが、本質は別組織です。本来であれば両者が一つとなりもっと大きな組織に拡充させることができれば、さらに充実した活動が出来るのではないかと考える次第です。

角笛会は通常事業の他に幅広い活動しております。また毎年会報を発刊しており大学の近況、全国の校友の動向、クラス会等の情報を皆様に発信しております。会員からの情報はHPを通してお知らせしています。またご要望があれば事務局にご連絡ください。名簿の維持管理の目的で角笛会同期会開催に際し、同期会名簿の提出をもって1万円の補助をすることになっておりますので積極的に利用していただきたいと思います。

角笛会功労賞の授与について、昨年の総会によりクラス会幹事による推薦も可能となりました。今年度は支部役員以外にクラス会幹事、本部事務局経験者も推薦対象等の功労者も対象となったため多くの会員を表彰いたしました。多くの会員が角笛会発展のために尽力され受賞されたことはすばらしいことです。

本学獣医学科の卒業生は誰もが角笛会会員であります。現在、角笛会で活動されていない卒業生の皆様には世代を越えて校友と触れ合い、社会貢献する活動や次世代を担う在校生との交流を共に致しませんか。本学の獣医学科から獣医学部への移行のためにも、特に若い世代の卒業生が角笛会の一員として活動され組織の活性化を図っていただくことをお願いすると共に心より参加をお待ちしております。



ご 挨 拶

獣医学科主任 森友 忠 昭 (昭和61年卒)

学科主任を拝命いたしております昭和61年卒の森友です。会長の鳥海 弘先生を始め角笛会の先生方には、日頃より獣医学科の学生教育、研究活動にご支援とご協力を賜り、誠にありがたく存じております。学科教員を代表して厚くお礼を申し上げます。

当獣医学科は、本年3月に119名の卒業生を送り出しました。そのうちの118名が獣医師国家試験に臨み、115名が合格し、合格率は97.5%と全国平均94.2%を上回りました。本年も多くの獣医師を社会に送り出し、新卒業生は既にそ

それぞれの就職先で活躍を始めております。また、4月には127(男64、女63)名の新入生を迎え、現在の在籍者数は791(男335、女456)名となりました。

今年3月は、獣医生化学研究室の杉谷 博士教授と獣医伝染病学研究室内の泉對 博特任教授が退職されました。一方で、今年4月には、獣医放射線学研究室に合屋 征二郎助教、獣医解剖学研究室に高橋 直紀助教をお迎えしました。また、獣医消化器病学研究室内の坂井 学先生が教授に、獣医生化学研究室内の岡林 堅先生および獣医臨床病理学研究室内の丸山 治彦先生が准教授に、獣医産業動物臨床学研究室の大野 真美子先生が専任講師に、医動物学研究室の増田 絢先生が助教に昇格されました。

今年は、新型コロナにより大学の運営に大きな影響が出ております。まず、3月の卒業式は簡略化された卒業証書伝達式のみとなってしまう、別れを惜しむ間もなく卒業生を送り出すこととなってしまうまいりました。残念なことでした。また、4月初めに予定されていた入学式はキャンセルとなり、前期授業の開始も5月18日からと大幅に遅れ、さらにすべての授業・実習はオンラインとなってしまうまいりました。学生のいない大学がこんなに寂しく、“大学は学生より成る”と改めて痛感させられました。その後、学生の大学内への入構も徐々に解除され、研究室活動などで高学年の学生達が戻って来るにつれ、徐々に活気が戻りつつあります。

後期は9月23日から始まりです。実学を重んじる獣医学教育においてオンライン授業・実習だけでは大きな問題との認識から、教員一同で話し合い、後期からは低学年を中心に半分以上の講義は面接授業に戻し、また、実習は通常の半分程度の人数で対策を講じながら再開することにしました。新型コロナの再拡大が起らないことを願うばかりです。

生物資源科学部においては、受験者数が暫減する中、“今後とも選ばれ続けられる大学として、既存の学科の枠組みを越えた改革が必要”との方針が、大矢祐治学部長より示され、令和5年度には学部改組が予定されています。具体的な改組案は未だ示されていませんが、今後、獣医学科としても学部改革に積極的に関与することはもちろんですが、“資格取得を目的とした6年生教育を行う学科”としての立場も理解していただかねばと思っております。

今回は、大学や獣医学教育の近況についてご紹介を致しましたが、何事においても、当獣医学科の教員だけで成し遂げることはできません。角笛会の先生方との交流を深め、折に触れご意見を頂戴し、それを生かしながら教員一丸となって、よりよい教育・研究の環境作りを推進致したいと思っております。

角笛会の皆様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますと共にご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

令和2年度 角笛会総会・日本大学獣医学会 合同開催 および角笛会主催 動物病院就職説明会の中止

事務局 大野 真美子 (平成20年卒)

令和2年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会を合同開催する予定で準備を進めておりましたが、国内の新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからない状況にあることから、開催の可否について皆様のご意見をいただき、令和2年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会の合同開催を中止することといたしました。

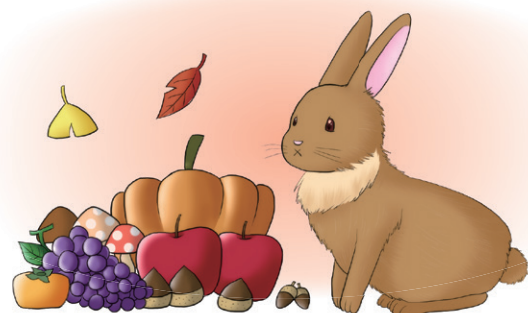
また、同日に開催予定であった獣医学科学生(準会員)のための動物病院就職説明会についても、同様に中止することといたしました。

令和2年度角笛会総会(書面総会)

事務局 大野 真美子 (平成20年卒)

令和2年7月17日に、紙上にて令和2年度角笛会総会を開催し、7月30日までご意見をいただきました。令和元年度事業活動および会計収支報告、令和2年度事業活動および予算案等が審議され、全員一致で承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、村上守夫氏(福島県)、篠崎幸治氏(栃木県)、宮崎次朗氏(岐阜県)、長崎英二氏(高知県)、野口弥市氏(長崎県)、石原貢一氏(熊本県)、川泉邦雄氏(愛信桜会)、鈴木敏夫氏(愛信桜会)、吉村武明氏(愛信桜会)、愛信桜会(本部)、長尾壮七先生(本部)、津曲茂久先生(本部)の11と1団体に賞状と記念品が授与されました。また、堀口隆嘉氏(東京)、豊川達憲氏(東北北海道)の2名に角笛会特別功労賞が授与されました。

*愛信桜会は、昭和32年入学もしくは昭和36年卒業の校友によるクラス会名です。



角笛会主催 Web 動物病院就職説明会

事務長 大 野 真 美 子（平成20年卒）

令和2年9月9日（水）10：00～16：30に角笛会主催で Web 動物病院説明会を開催しました。例年、6月の角笛会総会に合わせて対面式説明会を実施してきましたが、本年は新型コロナウイルス感染症のため、その代替として実施しました。参加施設は22動物病院、学生は10名が参加しました。対面式説明会より動物病院も学生も参加数が減少してしまいました。インターネットを利用したイベントが普通になってきていますが、まだ対面式には及ばないことを認識しました。しばらくはこのような実施形式となると思いますが、今後は事前にアンケートを取るなどして開催を判断したいと思います。

就活を頑張っている「日大生」ととことん応援する企画



参加求人全とのWeb説明会

厳選優良求人
が多数参加

参加費無料！
全てWebサポート！

日本大学生物資源科学部限定

Web動物病院説明会

合計24求人と出会うWeb動物病院説明会

■開催日：9月9日(水)

■場 所：Zoom（Web動物病院説明会専用オンライン会場）
申込者へ参加URL、ID、Passを発行いたします！

■時 間：10:00～17:00 ※受付は9:45
途中退出可能。ご都合の良い時間にご参加下さい！

1

コロナ過でも安心！当イベントは全てオンラインで完結！

当イベントは全てオンラインで完結するイベントとなります。交通費をかせずに自宅から、学校から、PCやスマホ、タブレット1台から参加することが可能です。

2

Web合説が初めてでも大丈夫！

Zoomの使い方は勿論、カメラ目線の高さ、部屋の明るさ等、細部にわたりレクチャーすると同時に挨拶（第一印象）やWeb説明会の受け方をフィードバックいたします。

3

1日で最大24求人とのWeb説明会が可能！

参加求人多くの多くは、大学が厳選した全国各地の求人となりますので、安心して選考を進めることができます。数多くの求人の説明を聞き自分に合った求人を見つけエントリーしてみましょう！

総会資料

令和元年度 一般会計収支決算報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

収入の部					(単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	
1. 本部会費	1,200,000	1,174,000	△ 26,000	各支部より1,330名×1,000円	
2. 準会員費	2,400,000	2,448,590	48,590	学部校友会	
3. 雑収入	135	22,511	22,376	預金利子、その他	
4. 前年度繰越額	1,829,865	1,829,865	0	平成30年度分	
収入合計 (A)	5,430,000	5,474,966	44,966		

支出の部					(単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	
1. 経常費	2,060,000	1,710,664	349,336		
(1) 会合費	10,000	1,980	8,020	会議等	
(2) 交際費	300,000	271,100	28,900	支部総会祝い金・慶弔費・謝礼等	
(3) 旅費交通費	1,000,000	814,958	185,042	支部総会旅費等	
(4) 通信運搬費	50,000	69,550	△ 19,550	通信料・郵送料	
(5) 事務局運営費	700,000	553,076	146,924	給与・消耗品等	
2. 会報費	500,000	465,190	34,810	会報35号	
3. 名簿管理費	200,000	124,777	75,223	業務委託費等	
4. 準会員支援費	2,000,000	1,209,425	790,575	新入生・卒業生記念品、懇親会招待など	
5. 褒賞費	100,000	96,390	3,610	功労賞・角笛会会長賞・特別賞	
6. 学会補助費	0	0	0	第57回日本大学獣医学会*	
7. 医療系校友会補助費	130,000	146,000	△ 16,000	第18回日本大学医療系同窓・校友会・参加費補助	
8. 組織拡充費	80,000	53,112	26,888	ホームページ管理等	
9. 特別会計Ⅰ	0	0	0	名簿作成繰入金	
10. 特別会計Ⅱ	200,000	200,000	0	将来事業繰入金	
11. 特別会計Ⅲ	0	0	0	角笛会学生会支援基金	
12. 予備費	160,000	0	160,000		
支出合計 (B)	5,430,000	4,005,558	1,424,442		

*今年度は休止
令和元年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 1,469,408円

令和元年度 懇親会費収支報告書

収入の部			(単位：円)
科 目		備 考	
懇親会参加費	250,000	38人×5000円、祝儀	
準会員参加費	100,000	本会計（準会員支援費より）	
収入合計	350,000		

支出の部			(単位：円)
科 目		備 考	
懇親会費	350,000		

令和元年度 特別会計Ⅰ 収支決算報告書【名簿会計】

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

収入の部					(単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	
1. 名簿作成繰入金	0	0	0		
2. 雑収入	27	52	25		
3. 前年度繰越額	3,047,973	3,047,973	0		
収入合計 (A)	3,048,000	3,048,025	25		

支出の部					(単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	
1. 名簿作成積立金	3,048,000	0	3,048,000		
2. 雑支出	0	0	0		
支出合計 (B)	3,048,000	0	3,048,000		

令和元年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 3,048,025 円

令和元年度 特別会計Ⅱ 収支決算報告書【将来事業資金】

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

収入の部					(単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	
1. 将来事業繰入金	200,000	200,000	0	一般会計より	
2. ANMEC 研究助成金	0	0	0	一般会計より	
3. 雑収入	55	51	△ 4	預金利子等	
4. 繰越額	1,255,945	1,255,945	0		
収入合計 (A)	1,456,000	1,455,996	△ 4		

*今年度は休止
令和元年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 1,455,996 円

支出の部					(単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	
1. 将来事業積立金	1,456,000	0	1,456,000		
2. ANMEC 研究助成金	0	0	0		
4. 予備費	0	0	0		
支出合計 (B)	1,456,000	0	1,456,000		

*今年度は休止
令和元年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B) 1,455,996 円

令和元年度 特別会計Ⅲ収支決算報告書【支援基金】
(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
1. 角笛会学生支援基金	0	0	0	
2. 雑収入	0	0	0	
3. 繰越額	1,600,000	1,600,000	0	
収入合計 (A)	1,600,000	1,600,000	0	

支出の部 (単位：円)				
科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
1. 角笛会学生支援基金	1,600,000	0	1,600,000	
支出合計 (B)	1,600,000	0	1,600,000	
(備考：特別会計Ⅲの雑収入は特別会計Ⅱの雑収入内に含まれる。)				
令和元年度次期繰越収支差額 (C) = (A) - (B)				1,600,000 円

令和2年度 一般会計予算 (案)
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

収入の部					(単位：円)
科 目	予算額(B)	前年度 予算額(A)	前年度 決算額	前年度予算 との比較 (A)－(B)	備 考
1. 本部会費	1,200,000	1,200,000	1,174,000	0	1,200名×@1,000円
2. 準会員費	2,400,000	2,400,000	2,448,590	0	学部校友会
3. 雑収入	592	135	22,511	457	預金利子
4. 前年度繰越額	1,469,408	1,829,865	1,829,865	△ 360,457	
収入合計	5,070,000	5,430,000	5,474,966	△ 360,000	

支出の部					(単位：円)
科 目	予算額(B)	前年度 予算額(A)	前年度 決算額	前年度予算 との比較 (A)－(B)	備 考
1. 経常費	2,060,000	2,060,000	1,710,664	0	
(2) 交際費	300,000	300,000	271,100	0	支部総会祝い金・慶弔費・謝礼等
(3) 旅費交通費	1,000,000	1,000,000	814,958	0	支部総会等旅費
(4) 通信運搬費	50,000	50,000	69,550	0	通信
(5) 事務局運営費	700,000	700,000	553,076	0	給与・消耗品等
2. 会報費	500,000	500,000	465,190	0	会報36号
3. 名簿管理費	200,000	200,000	124,777	0	業務委託等
4. 準会員支援費	1,800,000	2,000,000	1,209,425	△ 200,000	新入卒業生記念品、懇親会招待他*
5. 褒賞費	100,000	100,000	96,390	0	功労賞・角笛会会長賞・特別賞
6. 学会補助費	0	0	0	0	第58回日本大学獣医学会**
7. 医療系校友会補助費	130,000	130,000	146,000	0	第19回日本大学医療系同窓・校友会
8. 組織拡充費	80,000	80,000	53,112	0	ホームページ管理等
9. 特別会計Ⅰ	0	0	0	0	名簿作成繰入金
10. 特別会計Ⅱ	200,000	200,000	200,000	0	将来事業繰入金、ANMEC 研究助成金
11. 特別会計Ⅲ	0	0	0	0	角笛会学生支援基金
12. 予備費	0	160,000	0	△ 160,000	
支出合計	5,070,000	5,430,000	4,005,558	△ 360,000	
*就職支援活動費を含む					

令和2年度 特別会計Ⅰ予算【名簿会計】(案)
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 名簿作成繰入金	0	0	0	一般会計より
2. 雑収入	25	27	△ 2	預金利子等
3. 繰越額	3,048,025	3,047,973	52	
収入予算合計	3,048,050	3,048,000	50	

支出の部 (単位：円)				
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 名簿作成積立金	3,048,000	3,048,000	0	
2. 雑支出	25	0	25	
支出予算合計	3,048,025	3,048,000	25	

令和2年度 特別会計Ⅱ予算【将来事業資金】(案)
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 将来事業積立金	200,000	200,000	0	一般会計より
2. ANMEC 研究助成金	0	0	0	一般会計より
3. 雑収入	4	55	△ 51	預金利子等
4. 繰越額	1,455,996	1,255,945	200,051	
収入予算合計	1,656,000	1,456,000	200,000	

支出の部 (単位：円)				
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 将来事業積立金	1,656,000	1,456,000	200,000	次回式典及び記念誌作成の為の積立
2. ANMEC 研究助成金	0	0	0	
3. 予備費	0	0	0	
支出合計	1,656,000	1,456,000	200,000	

令和2年度 特別会計Ⅲ予算【支援基金】(案)
(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 角笛会学生支援基金	0	0	0	
2. 雑収入	0	0	0	
3. 繰越額	1,600,000	1,600,000	0	
収入予算合計	1,600,000	1,600,000	0	

支出の部 (単位：円)				
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 角笛会学生支援基金	1,600,000	1,600,000	0	
支出合計	1,600,000	1,600,000	0	
(備考：特別会計Ⅲの雑収入は特別会計Ⅱの雑収入内に含まれる。)				

動物病院だより

動物病院長 中山 智 宏

会員の先生方におかれましては、平素より ANMEC の運営にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

今年は新型コロナウイルス感染症のため、かつてない ANMEC 運営となりました。まず、最初にその状況を説明いたします。2月下旬以降、新型コロナウイルス感染症拡大懸念のため、ANMECでは4月より新規症例の受入を一時停止するとともに、最低限の教職員による診療体制とし、学生の院内立ち入りにつきましては、完全に禁止としました。この措置により、いつも症例をご紹介していただいている先生方には、新規症例を引き受け出来ず、多大なご迷惑をお掛けすることとなってしまいました。この場をお借りしまして、お詫び申し上げます。しかしながら、先生方のご理解とご協力があって、ANMEC内では陽性患者の発生はなく、そのことから、強制的な休診措置を実施することなく、本日に至っております。5月25日に政府から緊急事態宣言が解除され、7月より新規症例を段階的に受け入れています。ただ、ANMECは多くの人が集まる場所であることから、感染症防止対策を緩めることは出来ず、現在においても、平時よりも縮小した体制で診療を行っています。学生で賑わうキャンパスが見られなくなってから、半年以上が経過しました。1日も早く新型コロナウイルス感染症が終息することを願うばかりです。

次に、最近の主な人事から動物病院の近況をご報告いたします。本年4月に合屋征二郎先生(平成26年3月に宮崎大学獣医学科卒業)が助教として赴任し、循環器科を担当することになりました(獣医放射線学研究室所属)。昇進人事では、内科・消化器科の坂井学先生が教授に(獣医消化器病研究室主宰)、臨床検査科・血液病科の丸山治彦先生が准教授に(獣医臨床病理学研究室所属)、産業動物診療科の大野真美子先生が専任講師に(獣医産業動物臨床学研究室所属)、それぞれ昇進しました。また、今年度、有給研修医は8名を新規採用しました。その結果、4年目までの全研修医数は18名となりました(2年目4名、3年目2名、4年目4名)。コロナ禍での厳しい新年度の幕開けとなりましたが、飼い主さんや先生方に満足していただける診療をスタッフ一同、心がけていきますので、どうかよろしく願いいたします。

総合参加型臨床実習が今年度も9月末より開始されました。本実習は獣医学教育の総決算の1つであり、教育制度上、非常に重要な科目として位置付けられています。例年、本実習期間中はANMEC内が獣医学科5年生で溢れかえっています。この状況は国公立大学と比較して、圧倒的に多数の学生を抱える私立獣医科大学では致し方ないとも言えますが、今年において、このことは公衆衛生上、回避しなくてはならない緊急課題です。そこで、いわゆる3密回避のため、今年の実習ではANMEC内に一度に立ち入る学生数を通常よりもかなり制限し、その代わり実習期間を年度末まで延長することで対応しています。本学部において、前期の授業は、実習を含め、すべてがオンデマンド方式によるビデオに代替されました。必要な感染症予防対策ではありますが、学生にとっては、実習という実体験の場が失われたことになります。臨床教育の鍵は本実習をいかに充実するかであり、当然のことながら獣医療事故を起こさないことを大前提に、学生が実臨床に機能的に参加可能となるよう、実習内容の工夫を重ねています。

末筆であり、またコロナ禍ではありますが、動物病院では先生方の見学を歓迎しています。お近くにお越しの際には、是非、ご連絡下さい。

動物医科学研究センターセミナー開催報告

動物医科学研究センターセミナー開催(第148回~第151回)

第148回 (R1.11.12開催)

演題:「計算機シミュレーションによるウイルス蛋白質の構造・機能・進化」
五十嵐学先生
(北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター)

第149回 (R1.12.10開催)

演題:「HTLV-1 感染予防法の開発」
水上拓郎先生
(国立感染症研究所血液・安全性研究部第4室)

第150回 (R2.1.14開催)

演題:「ベクターにおける病原体生残戦略の解明」
八田岳士先生
(北里大学医学部寄生虫学研究分野)

第151回 (R2.2.12開催)

演題:「高宿主域プラスミドの接合伝達を統べる一抗生物質耐性遺伝子の拡散防止への挑戦から遺伝子導入法としての応用まで」
守口和基先生
(広島大学大学院統合生命科学研究科基礎生物学プログラム)

獣医学科の近況

【獣医師国家試験】

第71回獣医師国家試験が令和2年2月18日、2月19日に TOC 有明4階にて行われました。

日本大学獣医学科から118名が受験し、115名が合格しました。合格率は97.5%(全国平均94.2%)でした。

【表彰、受賞】

令和元年度の卒業生のうち優等賞が野池聡さん、学部長賞が山田拓実さん、佐藤綾乃さん、日本獣医師会長賞が新名勁太さん、角笛会長賞が白木沙也加さん、塚越くるみさん、角笛会特別賞が永嶋惇平さんにそれぞれ授与されました。

【博士（獣医学）の学位取得者】

令和元年度 課程博士：中山駿矢氏、牧野（泉沢）幾子氏、接待佳奈子氏、種子島貢司氏
論文博士：金井修一郎氏、北中菜菜子氏

【退 職】

令和元年11月21日、鈴木由紀准教授（獣医衛生学研究室）が逝去されました。
杉谷博士再雇用教授（獣医生化学研究室）、泉對博特任教授（獣医伝染病学研究室）が退職されました。

【人事・昇格】

坂井学先生（新設：獣医消化器病学研究室）が教授に、岡林堅先生（獣医生化学研究室）、丸山治彦先生（獣医臨床病理学研究室）が准教授に、大野真美子先生（獣医産業動物臨床学研究室）が専任講師に、増田絢先生（医動物学研究室）が助教に昇格されました。また、加納壘准教授が獣医皮膚病学研究室（新設）に異動されました。

【新 任】

本年4月に合屋征二郎助教（獣医放射線学研究室）、高橋直紀助教（獣医解剖学研究室）が採用されました。

■ 新任の先生の自己紹介



（獣医放射線学研究室）
合屋征二郎助教

角笛会の皆様には初めてご挨拶申し上げます。本年度より獣医放射線学研究室助教職を拝命しました合屋征二郎と申します。福岡県博多区で生まれ、宮崎大学獣医外科学研究室で萩尾光美先生の下で獣医循環器病学を学び、東京農工大学獣医外科学研究室の田中綾先生の下で博士号を取得しました。大学院では僧帽弁閉鎖不全症の犬の心血管機能に関する研究を行いました。博士課程終了後、日本大学附属動物病院で臨床指導獣医師として勤め、現職に至ります。日本大学に籍を置いてまだまだ日は浅いですが、日本大学の教員として誇りと責任を持って教育・研究・臨床に日々励んでいく所存です。若輩者でございますので皆様からのご指導とご鞭撻を賜れば幸いに存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。



（獣医解剖学研究室）
高橋直紀助教

角笛会の会員の皆様にはお初にお目にかかります。本年4月より、獣医解剖学研究室に助教として着任いたしました高橋直紀と申します。北海道札幌市出身で、酪農学園大学を卒業後、同大学院獣医学研究科博士課程を本年3月に修了（博士（獣医学））いたしました。大学院では結合組織、コラーゲンを3D電子顕微鏡で3次元構築するといった研究を行ってまいりました。着任早々新型コロナウイルス感染拡大のため、授業、実習がオンデマンドに変更となり約半年が経過しました。これまでの日本大学獣医学科の日常風景はわからないままですが、卒業論文を控えた学生が少しずつ登校できるようになり研究室、大学構内が賑やかになっていくのを感じております。このような状況ですが、教育面では、研究室の五味浩司教授、安井禎准教授のもと獣医解剖学実習、獣医組織学実習をはじめとする基礎獣医学の重要性を伝えること、研究面では3次元構築をすることで病態時の組織構造変化の解明を、また卒業論文を通じて形態学の魅力を学生に伝えることを目標に日々精進してまいります。皆様からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

■ 令和2年度獣医学科入試状況

選抜方法選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
A方式（第1期）	42名	653名	108名	6.0倍
A方式（第2期）	15名	365名	56名	6.5倍
N方式第1期	3名	193名	56名	3.4倍
一般推薦（公募制）	学部全体で100名	29名	20名	1.5倍
一般推薦（公募制・関連産業後継者）	学部全体で26名	9名	7名	1.3倍
校友子女推薦（公募制）	学部全体で28名	10名	8名	1.3倍

■ 学年担任（令和元年度）

- 1年次 小川健司教授（獣医伝染病学）、住吉俊亮専任講師（獣医産業動物臨床学）、西村知良准教授（一般教養）
- 2年次 壁谷英則教授（獣医食品衛生学）、岡林 堅准教授（獣医生化学）
- 3年次 堀北哲也教授（獣医臨床繁殖学）、丸山治彦准教授（獣医臨床病理学）
- 4年次 北川勝人教授（獣医神経病学）、小熊圭祐准教授（獣医伝染病学）
- 5年次 山谷吉樹教授（獣医麻酔・呼吸器学）、関真美子専任講師（獣医外科学）
- 6年次 五味浩司教授（獣医解剖学）、松本淳教授（医動物学）

訃 報

鈴木由紀先生の天逝を悼んで

獣医衛生学研究室 教授 伊藤 琢也

獣医学科准教授としてご活躍中であつた鈴木由紀先生は、令和元年11月21日に永眠されました。39歳の若さでした。

とても早すぎる、お互いに大変つらいお別れでしたが、鈴木先生がどんな時も明るく前向きな心で接して下さったその姿勢によって私達はいつも励まされ、同時に幸せを頂いていました。そんな鈴木先生も心温かいご家族、最高の伴侶、良きご友人や仕事仲間、また学生達に囲まれ、きっと同じように幸せだったのではないかと思います。

仕事と趣味が全く同じ『研究』だった鈴木先生は、学生時代から研究活動にのめり込んで、その人生をととても生き生きと輝かせました。日本大学での学部生・大学院生時代は恩師の酒井健夫先生や私、学生の仲間と共にブラジルのコウモリ狂犬病の疫学研究に打ち込み、その後、日本学術振興会のポストドクター研究員時代では国立遺伝学研究所や名古屋市立大学で五條堀孝先生や鈴木善幸先生と出会い、ウイルスの進化学研究の面白さに目覚め、さらに日本学術振興会海外特別研究員としてオックスフォード大学でインフルエンザウイルスやボルナウイルスの不思議に魅せられ進化学研究の視野を広げられました。それら研究活動における功績は後に日本獣医学会で認められて、平成29年に「RNA ウイルスの病原性獲得機構の分子進化学的解明」との課題で獣医学奨励賞を受賞されておられます。海外から母校の日大、出身の獣医衛生学研究室に動物医科学研究センター研究員として戻られ、獣医学科教員として着任されました。教員としての学生指導では、研究の面白さを自らの体験を持って現在進行形で語り、時には熱



くなりすぎることもありながら、それでも研究に対する情熱と意気込みは凄まじく、多くのウイルス学研究者の方々の研究班に入り込んでまさに研究を楽しんでいる姿を見ていたら、何だか研究に対する愛情『研究愛』のようなものを持っているのだと感じることもしばしばでした。ですから、いつも明るく前向きな姿勢こそは、学生だけでなく、むしろ教員が大いに見習うべき『希望の星』のような存在で、大学に残された者として、最も大事なことを身をもって教えて下さったのだと大変感謝しています。

鈴木先生はご家族やごく一部の方を除いては、ご逝去の2週間程前に治療入院されるまでご自身の病状を口にされませんでしたので、突然のことと思われた方も多いかも知れません。しかし、治療を始められたのは七年前で、手術や抗がん剤治療、放射線治療など、ご主人様やご家族、主治医の先生方とともにできうる全ての、しかし大変つらい治療を続けながらも、一方では精力的な研究教育活動をされておられました。そこには自分自身の気力を鼓舞するとともに、周りの皆を心配させたくない温かい配慮のもとに考えられた行動があつたと思うのです。

鈴木先生がいなくなって、ご専門の研究分野の発展が止まってしまったとともに、本学だけでなく将来必要とされる社会の貴重なリーダーが一人失われてしまったことは私達にとって計り知れない損失です。それにもまして、私達は鈴木先生が大好きな研究で大成功を収める姿を見ることができず、大変寂しいかぎりです。しかし、鈴木先生と関わった私達には、『何事にも常に前向きな姿勢で取り組み、人生を精一杯生きる』という生き様から教えた力強いメッセージを受け取りました。そのような精神は、私達の心の中で生き続け、語り継がれるでしょう。

鈴木由紀先生、楽しく、かけがえのない思い出を私達に下さって本当に有難うございました。今では日大藤沢キャンパスにほど近い遠藤の寶泉寺にてお眠りになり、そこから私達を見守って下さっています。

見上彪先生のご逝去を悼む

事務局

見上彪先生(獣医公衆衛生学研究室 元教授)(享年81歳)におかれましては、令和2年2月5日にご逝去されました。ここにご冥福をお祈りし、謹んでお知らせいたします。なお、ご葬儀は既に執り行われ、角笛会から供花をお供えさせていただきましたことをご報告申し上げます。

トピックス

渡部 敏 名誉教授「瑞宝小綬章」受章

獣医生化学研究室 岡 林 堅 (平成13年卒)

渡部 敏 名誉教授（昭和37年卒：獣医生化学研究室）が令和2年 春の叙勲において、「瑞宝小綬章」受章の栄誉に輝きました。

渡部敏先生は、獣医学の教育・研究において、獣医生化学の学生教育は言うに及ばず、平成15年にコンピューター制御による実験動物用の搾乳機を考案・開発し、ラット、マウスの人工搾乳に世界で初めて成功しました。

さらに、この搾乳機を応用し、絶滅の危機に瀕しているジャイアントパンダ用の搾乳機を開発し、パンダの産仔に初乳の人工哺乳をすることに成功しました。これによって初産の産仔がほぼ生存できるようになり、ジャイアントパンダの産仔救済に多大な貢献をするなど、獣医学の発展に大きく貢献しました。

平成16年には、中国・成都大熊猫繁育研究基地における単位履修に関する申し合わせを締結することに尽力し、獣医学教育の国際化に貢献されました。

ジャイアントパンダの産仔の救済に多大な貢献をしてきた功績から、平成22年9月には中国・成都大熊猫繁育研究基地高級研究員の称号を授与されています。



日本大学名誉教授 渡部 敏先生



令和元年度 角笛会支部総会・他学科分科会の活動状況と派遣者一覧

R1年6月15日(土)	桜水会懇親会（本部）	鳥 海 弘	R2年1月10日(金)	東 京 角 笛 会 （アルカディア市ヶ谷）	鳥 海 弘
7月13日(土)	学部校友会総会懇親会	鳥 海 弘 学 科 教 員	1月11日(土)	滋 賀 県 支 部（草津市）	鯉 江 洋
7月20日(土)	岡山県支部（岡山市）	齋 藤 光 芳	1月18日(土)	沖 縄 角 笛 会（那覇市）	森 友 忠 昭 （豚熱のため中止）
7月21日(日)	新潟県支部（新潟市）	丸 山 治 彦	1月19日(日)	長 崎 県 支 部（諫早市）	鯉 江 洋
7月28日(日)	北海道支部（札幌市）	丸 山 総 一	2月2日(日)	愛知県支部（名古屋市）	五 味 浩 司
8月31日(土)	東北北海道支部（中標津町）	大 滝 忠 利	2月2日(日)	千葉県支部（千葉市）	岡 林 堅
9月7日(土)	熊本県支部（熊本市）	鯉 江 洋	2月7日(金)	角 笛 会 同 窓 会 （アルカディア市ヶ谷）	常 任 幹 事 会 （鳥海,井上, 幅田,羽原） 学科教員(22名)
9月15日(日)	京都支部（京都市）	岡 林 堅	2月22日(土)	茨城県支部（水戸市）	渋谷 久
10月13日(日)	埼玉県支部（さいたま市）	丸 山 総 一 （台風のため中止）	3月1日(日)	群馬県支部（高崎市）	渋谷 久 （新型コロナのため中止）
10月19日(土)	岩手県支部（花巻市）	岡 林 堅	3月7日(土)	岐阜県支部（岐阜市）	松 本 淳 （新型コロナのため中止）
10月19日(土)	宮崎県支部（宮崎市）	伊 藤 琢 也	3月8日(日)	静岡県支部（静岡市）	小 熊 圭 祐 （新型コロナのため中止）
11月6日(水)	神奈川県支部（本部）	学 科 教 員			
11月30日(土)	南信州支部（飯田市）	鯉 江 洋			
12月7日(土)	山形県支部（天童市）	岡 林 堅			
12月8日(日)	福島県支部（郡山市）	浅 野 和 之			
12月14日(土)	福岡県支部（福岡市）	酒 井 健 夫			

(敬称略)

令和2年度 角笛会支部総会・他学科分科会の活動状況と派遣者一覧

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のため支部総会への派遣依頼は来ていません。

日本獣医師会獣医学術学会年次大会(東京)開催に伴う角笛会同窓会

公益社団法人日本獣医師会の獣医学術学会が令和2年2月7日(金)～9日(日)まで東京・有楽町の東京国際フォーラムで行われました。この学会は毎年各地で開催され、これに伴い各獣医科大学の開催地の校友会が学会初日の夜に「同窓会」を開催しています。

東京角笛会として倉林会長を中心に、永井・大久保副会長、幅田・羽原理事、池田事務局長で実行委員会をつくり書面で協議し開催に至りました。

事前配布された学会の講演集に同窓会の開催案内を掲載しました。この学会での同窓会案内を掲示したのは日本大学と麻布大学の2校だけでした。

2月7日(金)午後6時より8時まで千代田区・市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」にて開催しました。倉林恵太郎東京角笛会会長(昭和36年卒)が挨拶した後、蔵内勇夫日本獣医師会会長(日本大学獣医学科・昭和54年卒)のご挨拶のあと、鳥海弘角笛会会長(昭和50年卒)のご挨拶がありました。幅田慶子先生(昭和45年卒)が乾杯の音頭をとって懇談に入り、森友忠昭獣医学科主任(昭和61年卒)のご紹介で日本大学生物資源科学部次長になられた丸山総一教授(昭和59年卒)が学部の近況を講和されました。終了時間になり永井秀和副会長(昭和50年卒)が締めの挨拶をしました。参加者に倉林会長自作の桐箱入りぐい呑みを差し上げました。

角笛会事務局長・鯉江洋教授(平成2年卒)の格別なお取り計らいで大学から20余名のご参加を頂きました。角笛会の会員は北は青森から南は九州までの全国より20名ほどの参加があり盛況のうちに同窓会は終了しました。

(文責・東京角笛会事務局長 池田丞)



角笛会関連記事(支部だより)

■福岡県支部 創立25周年記念大会

日時：令和元年12月14日(土)

場所：博多サンヒルズホテル

派遣教員：酒井健夫 名誉教授



■ 岩手県支部だより

令和元年10月19日（土）、「そめや旅館」にて開催。

派遣教員：岡林 堅



■ 山形県支部だより

令和元年12月7日（土）、「天童ホテル」にて開催。

派遣教員：岡林 堅



■ 神奈川県支部だより

令和元年11月6日（水）、「日本大学生物資源科学部」にて開催。

派遣教員：獣医学科教員多数



■ 長崎県支部だより

日時 令和2年1月19日（日）17:30～

場所 うなぎ割烹北御門（長崎県諫早市）

派遣教員：鯉江 洋



■ 千葉県支部だより

令和2年2月2日（日）、「東天紅」にて開催。

来賓：越村義雄（一社）人とペットの幸せ創造協会 会長
石井進 日本大学 常務理事

派遣教員：岡林 堅



角笛会関連記事(同期会だより)

■令和元年進勇会開催報告

気が付けば日が短くなり晩秋となりました、皆様にはお元気で過ごしのことと思います。台風と水害の波状襲来には驚きましたが、今年の進勇会は、岡山県新見市の早瀬君のお世話で、新見千屋温泉「いぶきの里」で10月27日(日)に開催し無事終了いたしました。

卒業以来や一年ぶりの再会があり旧交を温めました。宴会は、故豊田君の一周忌にあたることから幅田幹事長の献杯で開宴し、各自の近況報告では、社会参加や趣味など様々に活躍している話を聞き励みになりました。今回は、1家族4と4夫婦の参加があり和やかな宴会でした。二次会カラオケでは、耕崎君の奥様の名司会で玄人はだしから音程の多少の外れもなんのその等、大いに盛り上がりました。

翌日は、新見市内の御殿町歩きをボランティアガイドさんの案内で巡り有意義な時間を過ごしました。

来年は、令和2年10月18日(日)に山形県かみのやま温泉で新関君にお願いすることとなりましたが、昭和45年卒業から50年となる大きな節目ですので、大勢の参加をお願いいたします。



上段 早瀬・大庭・苫米地・幅田・土屋・耕崎・安藤(光)・福田

中段 飯島・大庭・安藤(光)妻・耕崎(妻)

下段 安藤(重)一家・河野・堀内・小倉・小倉(妻)

名簿管理及び連絡係 411-0031 静岡県三島市幸原町 1-6-48 大庭芳和・治美
TEL&FAX 055-986-8031 E-mail アドレス y.ohba2326@sea.plala.or.jp
携帯 090-5858-2005 メール ohbahana2005@docomo.ne.jp

事務局よりお願い

「支部だより」「同期会だより」を充実させるため、総会・懇親会で撮影した写真と文章をお送りください。各支部の様子を写真付きで紹介させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いします。

支部総会に現役教員を派遣します。ご要望がありましたら、事務局までご相談ください。

角笛会関連記事(活躍する卒業生)

■ 地域を元気に～独自の活動でその魅力を発信する校友たち～
市民が集まる施設として、海岸の多彩な楽しみ方を提案
「日本大学交友会会報誌 桜緑 No.34 (2019年1月) より転載」

平成2年、平塚市で海水浴だけではない新たな海岸利用を考えるイベントとして、「相模湾アーバンリゾートフェスティバル(SURF)」が開催された。当時、平塚青年会議所の副理事長を務めていた北澤浩一さんはその企画・運営に参画。海水浴場がなく、湘南海岸では無名だった平塚市の海に、大きな魅力があることをアピールした。

それをきっかけに平塚市では、海を楽しむ施設として会場跡を活用する機運が高まった。海岸は県が管轄しており、一般的には夏期にだけ利用が許されるが、海水浴ではなくビーチ・マリンスポーツであれば通年でできる。北澤さんらは熱心な働きかけを行い、日本初の通年利用施設「ひらつかビーチパーク」の誕生にこぎつけた。

「当時はビーチバレーのネットを張る許可を週末ごとに申請に行きました。そのうち県の担当者も『ずっと張ってていいです』と(笑)。先駆者だった川合俊一さんを招いて、ビーチ活用シンポジウムを開いたりもしました。しだいにヨット、サーフィンなどの仲間も集まるようになり、平成4年に湘南ひらつかビーチクラブが発足したんです」

現在、同クラブの会員数は約200人。子どもから大人まで、海を自由に楽しむのが主な目的だ。道具はできるだけ共有し、海のコンディションに対応した種目や方法を選択する。やりたいことがあれば一人でも部会を作ることができ、現在部会が自主的にイベントを企画している。

「海を使ったレジャーやスポーツは多彩ですが、一般の人はなかなか参加しにくい雰囲気があります。当クラブは商行為以外ならば基本的に何をやっても自由。たとえば、海岸で民謡を踊りたければぜひ踊ってほしい(笑)。常識にとらわれない、新しい海の楽しみ方を提案してほしいですね」

同クラブのコミュニティ活動を通じて、着実にビーチパークの認知度は向上している。しかし、周辺の鎌倉市、茅ヶ崎市などに比べると、平塚市はどうしても知名度が劣り、市は施設やイベントなどに「湘南ひらつか」という名称を用いている。その現状を変えるのが北澤さんの目標だ。

「もちろん、観光客相手だけの大型商業施設やレジャー施設などを作っても意味がありません。周辺にいくらでもありますし、永続的に続くわけがない。平塚市は魚や野菜がおいしく、落ちついた雰囲気の暮らしやすい町です。レジャーに訪ねてもらうだけではな



北澤 浩一 (きたざわ こういち)

昭和54年農獣医学部獣医学科卒業

湘南ひらつかビーチクラブ会長。本学卒業後、学部附属家畜病院に勤務。2年後、北澤獣医科病院の獣医師に。現在、同病院長。勤務のかたわら、ブルーグラス(カントリー系音楽)のバンドを組み、ヴォーカルとギターを担当している。年に数回ライブを開催するほか、福祉施設での演奏なども行っている。



ビーチパークには10面のビーチバレーコートがあり、そのメッカとして親しまれているビーチでは年間を通して様々なイベントを開催。毎月第二土曜日にはビーチスポーツ無料体験会を開催。夏期はサーフィンもできる。日本サーフィン界草分けの井坂啓己(どじ井坂)さんが参加することもビーチセンターは海岸の公民館的な役割を果たしており、売店やシャワールーム、コインロッカーなどの設備も整っている。

く、住みたいと思ってもらえる町にしたい。海づくりではなく町づくりがあくまで重要です」

最近市外・県外からの利用者も増えた。うれしい反面、平塚市民にもっと地元のビーチとして利用してほしいというのが願いだ。親子で気軽にビーチスポーツを楽しんだり、魚料理の教室などを開いたり、市民が集う公民館のような機能を備えていきたいと考えている。同クラブの運営は「かっこよく言えば使命」と笑う北澤さん。実現したいことは、まだまだたくさんある。



■ 3世代桜門ファミリー

畜産農家から獣医師へ。さらなる桜門人も誕生

「日本大学交友会会報誌 桜緑 No.36 (2020年1月) より転載」

川畑家は以前、和牛を飼育する畜産農家だった。勝利さんは将来、畜産技術員になろうと考え農業高校に進学したが、学校推薦により本学に入学。獣医師一家の端緒を開いた。

「当時は三軒茶屋にキャンパスがありました(現スポーツ科学部・危機管理学部)。著名な先生方が多くいらして、環境はとても整っていた。勉強についていくのは大変でしたけどね(笑)」



勝利さんが福山町に川畑動物病院を開院した頃



長女の晴加さんは小学校3年生の時、学校の課題で「日本一の鹿児島黒牛～おじいちゃんはお牛のお医者さん」と題し、祖父勝利さんの獣医師としての生活をレポート・発表し、鹿児島県で特選に選ばれた。



卒業後、獣医師免許を取得し鹿児島に帰郷。農業共済組合の家畜診療所に35年間勤めて退職したが、畜産農家からの強い要望もあり「川畑動物病院」を開院した。

「父の仕事柄、漠然とした獣医師への憧れはありましたが、バイクや車が好きだった事もあり工学部進学を考えていました。しかし、将来は好きな道に進めと言っていた父に『獣医になりたいなら最大限協力するぞ。男なら一浪くらいしても良いぞ』と、言われたことがきっかけで進路を決めた」と貴裕さんは振り返る。

貴裕さんが入学した頃、すでに獣医学科は湘南キャンパス(現生物資源科学部)に移動。6年制となったほか女性の入学者も増え、知りあったのが美千代さんだ。

「私は小さい頃からとにかく獣医になりたかったんです。でも、中学時代に獣医学科の倍率を見たら35倍とかで。そこで考えたのが推薦入学。付属校の豊山女子高校に入学し、野望を実現しました(笑)」

結婚後、二人ともしばらくは勤務医をしていたが、平成12年に幼い晴加さんを連れて帰郷。小動物を手がける分院を開院し、勝利さんと3人で診療にあたってきた。

「祖父、両親が獣医でしかも日大出身。『それなら自分も』ってなりますよね(笑)」と晴加さん。昨年、妹の有以さんも本学獣医学科を受験し、合格。今春からは姉妹で獣医師を目指す。さらに長男の光平さん(中学3年)も獣医師を志しており、まだまだ獣医師一家の裾野は広がりをみせそうだ。

診る動物は変わっても獣医師の役割は同じ

勝利さんが入学したのは昭和34年。当時の獣医学科で学ぶのは家畜の医療で、とりわけ馬に重きが置かれた時代だったという。

「獣医はもともと軍馬を診療するための職業でしたから。しだいに牛、豚などの家畜全般に広がったんです。当時はまだ4年制で、実習などはほとんどなかった。現場で学び続けるしかない時代でした」(勝利さん)

その後、畜産農家の減少に加え、犬猫の飼育が一般的になると、獣医師の役割もしだいに変化してきた。



川畑 貴裕(かわばた・たかひろ) 平成8年農獣医学部獣医学科卒業 昭和45年鹿児島県生まれ。本学卒業後、横浜市の犬猫病院などを経て平成12年父勝利さんの川畑動物病院に勤務。同14年小動物専門の川畑動物病院分院開院、同31年現在の地に移転し川畑動物医療センターを新たに開院した。



川畑 勝利(かわばた・かつとし) 昭和38年農獣医学部獣医学科卒業 昭和15年鹿児島県生まれ。本学卒業後、薩摩町・始良地区の農業組合に獣医師として入職。35年勤務の後、平成10年福山町に川畑動物病院開院。同27年引退。



川畑 晴加(かわばた・はるか) 生物資源科学部獣医学科3年 平成11年神奈川県生まれ。現在、本学生物資源科学部獣医学科で獣医師をめざして学んでいる。



川畑美千代(かわばた・みちよ) 平成8年農獣医学部獣医学科卒業 昭和46年埼玉県生まれ。本学卒業後、上尾市の動物病院などを経て平成10年貴裕さんと結婚。その後貴裕さんと共に動物病院の開院、運営にあたり共に2女1男にも恵まれた。



勝利さんが通った当時の農獣医学部(世田谷区下馬)の正門

「私と妻の時代は、授業の3分の1くらいが小動物について。それでもまだ家畜の勉強も多かったんです。娘に聞くと、現在は学習内容の多くが小動物。時代の変化を感じます」(貴裕さん)

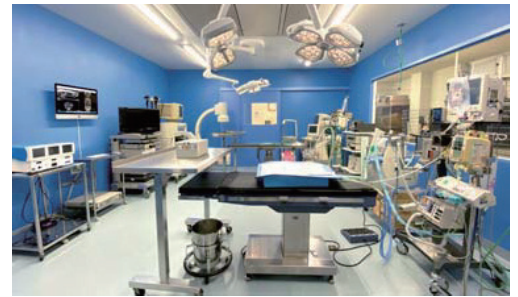
それでも、動物の命を救うという獣医師の役割は変わらない。「動物を苦しみから救ってあげられたこと、飼い主さんに喜んでもらえることが一番のやりがい」と3人は口をそろえる。「ときには救えない子がいるのも事実。それでも、同じ飼い主さんが新しい子をつれてまた診察にきてくださる。それも大きな喜びです」(美千代さん)

順調にいけば、3年後には獣医師になる晴加さん。「人に負けない技術を身につけなさい(勝利さん)」「飼い主さんの気持ちに寄り添う獣医師に(貴裕さん)」「大学の先生や同級生とのつながりも大切に(美千代さん)」と3人の先輩からエールを送られた。

「治療の技術だけではなく、地域のみなさんとの交流や、飼い主さんを大切にする姿勢は心から尊敬しています。獣医師になったら何年かはどこかで修行するつもりですが、いずれは帰郷して両親とともに診察にあたりたい。その日を目標に頑張ります」(晴加さん)



入院や高度な動物医療が可能とあって霧島市内外から飼い主さんが訪れ、1日に100例を診察することもあるという。



手術室



CT 検査室



スタッフの皆さん

■「アフリカと神戸俊平 友の会」ご紹介

神戸俊平先生(S44年3月卒)はナイロビで開業する傍ら、トリパノソーマ感染症防疫をボランティアで行っています。神戸先生のお父様は児童文学者で、神戸先生ご自身もアフリカにおけるチンパンジーとの生活を執筆なされNHKドラマ化されました。小説「沈まぬ太陽」(山崎豊子著)では「兵庫獣医」としても登場しています。神戸先生のところにはいまままでに多くの学生が訪問し、いまでも親交を続けている卒業生が多くいます。「友の会」はそんな神戸先生の活動をサポートする団体です。本部事務局には毎年「ナイロビ通信」が郵送されています。神戸先生による、大変興味深い文章が満載されています。この度、角笛会ホームページに転載の許可をいただきました。どうぞご覧ください。

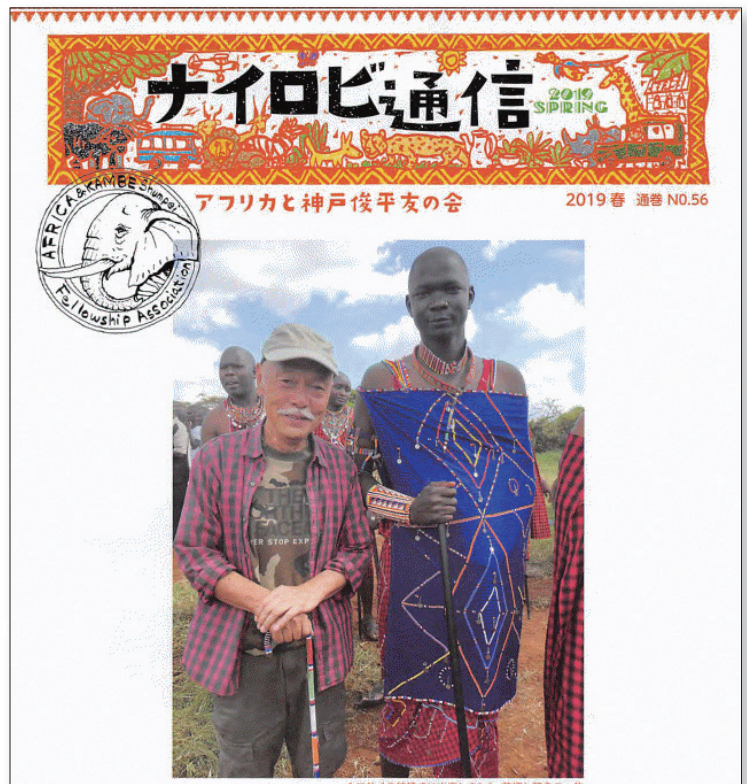
「アフリカと神戸俊平 友の会」会長 ヒサ クニヒコ

<http://s-kambevet.org/top.html>

日本事務所 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
神奈川中小企業ビル707 P to P 合同会社内

Tel & Fax 045-225-8403

支援振込先：郵便振替 00190-9-665050



▲マサイの結婚式に出席しました。花婿と記念の一枚

神など、この地方に住み着いた神々が鎮まる山として神聖視され、その頂部や麓に『日本書紀』に記す天香具山社、『延喜式』の式内社である畝火山口坐神社、耳成山口神社などが祀られてきました。(文化遺産より引用)

3 古代天皇陵

(1) 大仙「だいせん」古墳(仁徳天皇陵)

2019年7月大仙古墳など周辺の49個の古墳群が世界遺産に登録されました。代表格の大仙古墳(仁徳天皇陵)は三重の周溝に守られ、周囲の丘陵から多数の埴輪が出土し、巨大前方後円墳と中学生時代に学ばされた懐かしい記憶があります。

因みに墳墓の長さは486m、周囲は3km、広さは世界屈指で、埋葬者は延喜式により第16代仁徳天皇とされていますが、複数人の埋葬説(前方部にも石棺)もあります。仁徳天皇時代の記録がなく、天皇の在位期間や業績も明らかではありません。そのため名称は天皇名でなく地名由来の「大仙古墳」が一般的です。当古墳の周囲に従者の小型墳墓(陪塚)が多く、一説には墳墓ではなく埋葬者の備品を埋めた説が有力とされています。

百舌鳥エリア(堺市)には仁徳陵・17代履中陵・18代反正陵など。一方の古市エリア(羽曳野市)に15代応神天皇陵などの巨大古墳の築造があり、これらの古墳のサイズと造成位置から当時の歴史物語が想像される。神武天皇以来29代欽明天皇あたりまで記述がなく諸説の世界です。

(2) 用明天皇陵(31代・春日山古墳)

大阪・奈良境界山麓の竹内街道には用明天皇陵への案内石碑があります。古墳は大型で整備されています。用明天皇の在位期間は3年と短く激動の時世を予感させる位置にいました。二男が厩戸皇子(聖徳太子)という事で毎年5月宮内庁職員による正辰祭が行われています。

(3) 聖徳太子御廟(叡福寺北古墳・三骨一廟)

大阪南河内郡太子町・竹内街道沿いに叡福寺に守られている大型の円型古墳がみられます。もともと太子の母が祀られていた場所に聖徳太子と妃(膳大郎女)が三骨一廟で祀られ、入口は封印されています。正面の斜面に独特な瓦家造りの拝所があり、埋葬当時から寺に手厚く守られている墳墓は、他でみることはできません。厩戸皇子(聖徳太子)は官位12階や17条憲法の制定など行政手腕を発揮、仏教を庇護、各地に寺院建立など華々しい業績の歴史があります。これは聡明な太子の能力と蘇我一族の力と推古天皇摂政の後見が礎となっている背景を推察することができます。「聖徳太子の死因は何だったのか?」

西暦601年、聖徳太子は奈良市の南西に位置する広範囲の里に政治を司る斑鳩宮を造営し、また世界最古の木造建築の斑鳩寺(世界遺産の法隆寺)も創建しています。

西暦622年ごろ斑鳩の里(いかるがの里)と親しまれる里を中心に痘瘡(天然痘)が大流行したようです。感染は御殿にも及び、太子の母が死亡。その後、太子と妃が病死。母親は石棺で埋葬されていますが、太子と妃は麻布を漆で固めた乾漆棺とされています。石棺でないのは急逝との関係があると推量できます。太子は推古天皇が手厚く葬ったとされています。なお聖徳太子(574～622年。享年48)は死後の敬称(諡号)として129年後の史書に初めて記載されています。

(4) 推古天皇陵(33代・磯長山田陵)

額田部皇女(推古天皇)は欽明天皇の長男・敏達天皇の妃であり、しかも二人は共通の父欽明天皇の腹違いの異母兄妹であり、額田部皇女の周りは天皇が多いが短命在位や暗殺など悲惨な出来事が続いています。その中で額田部皇女が蘇我馬子に請われて33代推古天皇となった。推古帝は長寿(74歳)で子女も多い。特に甥の厩戸皇子を摂政にして強い意思を発揮、律令国家への道を推し進めました。覇権を我が物とする臣下蘇我馬子の要求を拒否するなどバランスを取りながら厩戸皇子と共に稀に見る政治能力を発揮しています。この激動期の最強最大のキーマンであった。古墳は方墳で正面はきれいに整備されており、推古帝の長男竹田皇子との合葬墳墓です。

(5) 二子塚古墳(無名墳墓)

推古天皇陵のすぐ裏に小山のような土盛りで、ラクダのふた瘤の頂上部にあたる石棺の一部が露出しています。周囲には畑が耕され小山に迫り。境界物もなく長年耕作者によって墳墓は削り取られてきたと思われます。これが推古帝の眞墳墓との説もあり、地元では公園化計画により墳墓の崩壊を阻止する動向がみられます。

(6) 小野妹子(遣隋使)の墓

文化・仏教伝来に寄与した遣唐使は多い。これに先駆け摂政厩戸皇子の命により遣隋使として小野妹子が海を渡っています。第一回目は中国皇帝に国の威信をかけ差し出した有名な親書(日出る処の天子書を日没する処の天子に致す…)が皇帝煬帝の逆鱗に触れたが再度派遣され遣唐使が国の威信をかけて国交を開き後の遣唐使の活躍に繋り、小野妹子は帰国後高い官位を授かり、太子の山里に歴史ある科長神社に守られるように祀られています。この事から聖徳太子(厩戸皇子)による官位12階・17条憲法制定などの国内行政改革と並び異国との外交成果として高く評価されています。

4 前方後円墳のふしぎ

1) 前方後円墳の起源

前方後円墳は2世紀から6世紀の間に造られた大王級の墳墓です。円形部分は埋葬個所で前方部は祭祀の場とされています。この墳墓の代表格が大阪堺の大仙古墳であり周辺地区一帯の古墳群(49個)が、令和元年7月に世界遺産に登録されました。因みに飛鳥時代の卑弥呼の墓(奈良県桜井市)とされる「箸墓」も前方後円墳で、韓国にも古代の前方

後円墳が十数基あるが造成年代が若いので前方後円墳は倭国（日本）固有のものとされています。

2) 前方後円墳の形

前方後円墳は歴史的には古いタイプの形で、後年に円墳や方墳に移行しています。世界遺産に登録された古墳群のうち ①仁徳陵 ②応神陵 ③履中陵がベストスリーのサイズです。因みに最大級の仁徳天皇陵築造には労務人力2000人で15年を要するとのゼネコン試算があります。巨大古墳の周囲には小さな古墳・陪塚（ばいちょう）が築かれています。が家臣の墓ではないとの説もあります。この時代は中国や韓国との緊張があり国力の誇示が必要であったので大王級墳墓を巨大化させ、内外に見せる意味合いが強く、スケールと特異な形の墳墓を造らせた当時の大王の権力は計り知れないものがあります。

3) 巨大古墳・前方後円墳の終焉

前方後円墳は弥生時代から造られ飛鳥時代に大王級の権力誇示と海外との交流を背景に大型化したとみられ、聖徳太子時代から蘇我氏と物部氏の抗争が続き、後に覇権を掌握していた蘇我一族・入鹿の暗殺や蝦夷自害などの「乙巳（いつし）の変（645年）」が没落、これが契機で大化の改新が始まり、一連の政治改革の中「薄葬令」により莫大な経費を要する大型墳墓造成はなくなった。「大化」は我国最初の元号であり、日本の律令国家がスタートした年でもあります。

5 古代ミステリアスな疑問と推理

(1) 厩戸皇子は推古天皇の摂政として活躍、なぜ天皇にならなかったのか

当然天皇の候補者の一人であったが、後継者と見られる推古帝の長男・竹田皇子が若く逝去していますが、推古帝は長命（74歳）で天皇在位が長く、一方、太子は48歳で急逝し、推古帝と太子の二人で協力して大きな改革を推進した心中を推理することは難しい。

(2) 推古天皇は「日本初の女性天皇」になれた理由は何か

蘇我氏と物部氏の権力争いで蘇我稲目が娘2人を欽明天皇妃に送込み、以後複雑な血族結婚や暗殺が行われた。そのため天皇は在位が短く蘇我一族に近い男子適格者がなくなり、美人で有能な額田部皇女（敏達天皇妃）が馬子に推され初の女性天皇（推古帝）の位についています。推古帝は直ちに一族の聡明な聖徳太子を摂政にし、影の実力者・臣下の蘇我馬子の要求をも拒否できる実力者になっています。

(3) 当時の大王級豪族に近親婚が多いのはなぜか

当時の天皇系統図を見ると複雑な血族関係がみられます。蘇我一族の額田部皇女（推古帝）と夫の天皇直系・敏達天皇（第30代）は、共通の父親が欽明天皇（第29代）であり二人は母の違う異母兄妹で、摂政・厩戸皇子の両親は欽明天皇妃となる蘇我稲目の娘達（長女と次女）から生まれた用明天皇と穴穂部皇女であり、両親とも蘇我一族（稲目）の血筋にあります。蘇我一族は稲目・馬子・蝦夷・入鹿と続くが蘇我馬子は娘と孫娘を34代舒明天皇妃に嫁がしています。この時代は近親婚が特別な事ではないとされていますが、権力闘争で優位に位置する蘇我一族が血縁関係で歴代天皇に強く関わり政治と権力行使の維持で近親婚が自ずと多くなったと考えられます。

(4) 竹内街道沿いに巨大古墳が多いのはなぜか。

竹内街道は日本初の国道といわれ、なにわの海（堺港・難波津）からやまと（倭）へ地方豪族や異国からの来訪者が多く往来したと思われる。特に海に近い堺市に世界一広大な「仁徳天皇陵」、羽曳野市に大型の応神天皇陵が存在し、当時、莫大な資財と人力を擁して海に近く超大型の人工物（古墳）をつくり、海外からの使節団に対して国力を誇示しようとする意図をみることができます。竹内街道の太子地区には蘇我一族の天皇陵が5箇所あります。このエリアからは石棺の出土が多く、石棺が容易に調達できた背景には、墳墓（古墳）近くの二上山が太古に火山噴火し山麓に凝灰岩塊（屯鶴峰：どんずるぼう）を形成したことから石棺が容易に工作できたものと考えられます。なお墳墓（古墳）や石棺は生前から大掛かりな準備しなければ型にならず、当時としては大型国家事業でもあったと推察できます。

後記

わが国のルーツとなる古墳は、なぜか近畿地方に多く見ることができます。余暇にまかせて体力増強を兼ね、それぞれの歴史時代を生活した人々の時間を想像し、愉しく探訪する年齢になっている己を近年特に感じています。

昭和・平成・令和と三代の天皇の時代の歩み80年、この時代歴史を駆け足で振り返ると、敗戦、食糧難で飢餓を憶え、木造校舎とコンクリート校舎の混在する三軒茶屋学舎で多くの学友と出逢い獣医職で社会人となり、平成初期の退職まで、全力で走り抜けてきました。今日では、限られた人生を伴侶との思い出づくりに各地を探訪しています。

なお、この拙文は、獣医学と関係のないレポートですが、神武天皇以来126代の天皇が2019年5月即位、元号「令和」を迎え、改めて古墳からみる天皇の歴史を再認識するために編纂したもので、昭和32年入学時同期「愛信櫻会」幹事の要望で「角笛会報誌」初めて投稿します。時代背景、記述の誤りなど、読者の寛大な御心で、ご容赦ください。

参考文献

- 1 大阪市観光案内パンフレット
- 2 各種の歴史図書
- 3 各所史跡案内板

日本大学生物資源科学部獣医学科教員

(敬称略
R2.4.1現在)〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
電話番号：0466-84-3800(代表)

【獣医解剖学研究室】 6号館 教授 五味 浩司
准教授 安井 禎
助 教 高橋 直紀

【獣医病理学研究室】 6号館 教授 渋谷 久
専任講師 近藤 広孝

【獣医薬理学研究室】 6号館 教授 山崎 純

【獣医微生物学研究室】 6号館 教授 遠矢 幸伸
助 教 木庭 隼達

【獣医生理学研究室】 6号館 教授 金山 喜一

【獣医病態生理学研究室】 6号館 教授 鯉江 洋

【獣医生化学研究室】 6号館 准教授 岡林 堅

【分子生物学的研究室】 6号館 専任講師 成田 貴則

【医動物学研究室】 6号館 教授 松本 淳
助 教 増田 絢

【獣医臨床繁殖学研究室】 動物医科学研究センター
教授 堀北 哲也

9号館 准教授 大滝 忠利

【獣医外科学研究室】 9号館 教授 浅野 和之
准教授 枝村 一弥
専任講師 関 真美子

【獣医臨床病理学研究室】 9号館 教授 鎌田 寛
准教授 丸山 治彦

【獣医皮膚病学研究室】 9号館 准教授 加納 壘

【獣医内科学研究室】 9号館 教授 亘 敏広

【獣医消化器病学研究室】 9号館 教授 坂井 学

【獣医放射線学研究室】 9号館 教授 中山 智宏
専任講師 高橋 朋子
助 教 合屋征二郎

【獣医衛生学研究室】 動物医科学研究センター
教授 伊藤 琢也

【魚病/比較免疫学研究室】 動物医科学研究センター
教授 森友 忠昭
専任講師 片倉 文彦

【獣医伝染病学研究室】 動物医科学研究センター
教授 小川 健司
准教授 小熊 圭祐

【実験動物学研究室】 動物医科学研究センター
教授 佐藤 雪太
専任講師 越後谷裕介

【獣医公衆衛生学研究室】 動物医科学研究センター
教授 丸山 総一
専任講師 佐藤 真伍

【獣医食品衛生学研究室】 動物医科学研究センター
教授 壁谷 英則

【獣医麻酔・呼吸器学研究室】 病院 教授 山谷 吉樹
専任講師 手島 健次

【獣医神経病学研究室】 病院 教授 北川 勝人
准教授 伊藤 大介

【獣医産業動物臨床学研究室】 9号館 専任講師 住吉 俊亮
動物医科学研究センター
専任講師 大野真美子

学 会 関 連 記 事

第58回日本大学獣医学会開催案内

- 日 時：2021年6月下旬（予定）
- 場 所：未 定
- 問 合 せ：事務局

事務局

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
日本大学生物資源科学部
獣医衛生学研究室 伊藤 琢也
TEL. 0466-84-3375
E-mail: itou.takuya@nihon-u.ac.jp

* 角笛会のホームページは随時、更新されております。角笛会関係の行事予定、支部同窓会からのお知らせ、また最新の角笛会報など多くの情報を発信しております。さらにホームページから新住所の登録もできます。是非、お立ち寄り下さい。

ホームページアドレス
<http://www.tsunobue.org/>



編 集 後 記

今年に入ってから新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、様々なイベントが中止となりました。大学でも、前期の授業・実習がオンデマンド方式となり、後期に少しずつ対面授業・実習が行われつつあります。新型コロナウイルス感染症に罹患された方々には謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い感染症の収束と皆さまのご健康をお祈り申し上げます。

角笛会会報にご意見、ご希望がございましたら獣医産業動物臨床学研究室の大野 (ono.mamiko@nihon-u.ac.jp) あるいは角笛会事務局 (tsunobue3@gmail.com) までご連絡ください。

今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和2年11月 大野 真美子 (平成20年卒)